

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078300094		
法人名	有限会社西日本総合		
事業所名	立花グループホームかつき苑		
所在地	福岡県八女郡立花町山崎1918番地		
自己評価作成日	平成22年5月14日	評価結果確定日	平成22年7月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4078300094&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年5月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

決められた1日の予定を消化していくのではなく、生活者のペースに合わせたゆっくりとした生活をおくっている。調理が好きな方が調理を手伝ってもらったり、掃除が好きな方は一緒に掃除したり、裁縫は好きな方は、ぞうきんを作ってもらったり、やりたいことをやれる環境をつくっている。苑のバスにて季節ごとの風物や催し事などを見にお出かけを行っている。苑に花壇や畑を作っており、生活者自身が耕し育てている。収穫した野菜はみんなの食卓にあがっている。グループホームの生活者であっても、関連施設であるデイサービス等を利用したり、逆にグループホームにデイの利用者に来てもらうなど相互に協力しあう体制がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

立花グループホームかつき苑は、緑豊かな田園風景の中に位置しており、敷地内や近隣には、同法人のデイサービスセンターやヘルパーステーション、地域共生ホーム等がある。また、ホームに隣接して独自の「地域支援ホール」を設け、24時間開放する等、地域拠点としての働きかけが行われており、今後の展開が楽しみである。季節や天候、状況にあわせて、また希望を募りながら、代表者自ら運転するバスを活用し、ドライブや名所巡り、なじみの場所等へ出掛けたり、また敷地内の畑や花壇では、入居者を中心として野菜や花が育てられ、日々の暮らしの活性化への支援が積極的に行われている。グループホームとしては、低料金での運営も特徴的であり、家庭的な雰囲気と程良い距離感の中で、普通の暮らしの実現に向けた取り組みが行われている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	敬天愛人・独立自尊・日日感謝を法人全体の理念としている。また「地域に根付き、地域と共に暮らせるように支えています」という文言の入ったグループホーム理念を朝礼にて毎日全職員で唱和し、実践できるための確認を行っている。	法人全体の理念のもとに、職員間で作られたグループホーム独自の理念を掲げ、朝礼にて唱和し、確認、共有の機会としている。また毎年、年間目標を作成しており、目に付きやすい場所に掲示している。独自に「地域支援ホール」を設ける等、理念の実践に向けた活動が行われている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集会に参加したり、行事や推進会議に区長・老人会長・民生委員等を招き交流を持っている。創立記念日には地域の区長・老人会長・民生委員等を招待して開催した。また地域の小学生の体験授業を受け入れたりしている。	ホームの看護師により、老人会での感染症・感染予防等についての情報発信が行われたり、地域の小学校5年生の体験学習を受け入れる等、地域に向けた積極的な働きかけが行われている。また、ホームに隣接して「地域支援ホール」が設けられており、地域拠点としての役割を果たすべく取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年グループホーム職員が老人会の集会等に参加し、インフルエンザ予防や感染症などの講演を実施している。また地域支援ホールを24時間地域に開放している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老人会長・民生委員・行政・家族代表・生活者代表などの方が参加されている。外部評価などの事項は推進会議にて報告し、その際参加者より意見をいただき記録を残し、実践するよう心がけている。	2ヶ月に1回、定期開催されている運営推進会議には、八女消防署立花分署からも参加を得ており、地域を含めた災害対策についての具体的な話し合いの場所ともなっている。入居者代表の参加もあり、日々の活動や畑の収穫状況についての報告が行われている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	八女市役所立花支所の福祉担当者に推進会議へ参加していただいている。八女市役所、旧立花役場の福祉及び生保担当者には家族問題や金銭問題、生保など色々な相談等をしながら苑でのとりくみを相談している。	平成22年2月に市町村合併があり、八女市役所及び立花支所の各担当者には、様々な事例について相談したり、助言を得ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に対しては身体拘束に関する理解を深めるよう朝礼や研修等で説明を行っている。また身体拘束をしないいいようなケアを行うためのケア内容の検討などを朝礼やカンファレンスにて行っている。現在も以前車椅子ベルトをしていた方のベルトをしないで生活できるよう取り組んでいる。	雨天・荒天時には健康面への配慮も含めて、ホーム周囲の柵を施錠することもあるが、日中、玄関には鍵は掛けられていない。徘徊時の対応についても、地域住民やコンビニエンスストア、駐在所等に、協力を要請している。行動傾向の把握や所在確認を行いながら、さりげなく寄り添うケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対しては虐待に関する理解を深めるよう朝礼や研修等で説明を行っている。また虐待とならないケアを行うためのケア内容の検討などを朝礼やカンファレンスにて行っている。		

福岡県 立花グループホームかつき苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	朝礼等にて周知しているが、今後研修等にて学ぶ機会をさらに作る予定である。	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、活用している方はいないが、内部研修等を実施し、必要時に活用に向けての支援が行えるよう、知識を深めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と疑問があれば尋ねていただけるよう配慮し契約を行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時にもご家族とお話ができるように必ず声掛けをおこなっている。推進会議にも利用者・家族代表の方にも参加していただいているので十分意見を聞けるように配慮している。	年1回の家族会の開催、また運営推進会議にも入居者代表・家族代表の出席があり、意見を収集し、運営に反映させるよう取り組んでいる。	事業所として、また法人として取り組んでいる活動や状況を、積極的に家族に発信する事で、更に関係性の強化につながると考えます。
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は管理者が普段から聞けるように良好な関係を構築している。またその意見は管理者より代表者に提案するようにしている。	管理者は、職員のストレスケアにも配慮しながら、意見の収集に努めている。	従事して1年前後の職員も多く、今後の職員育成につなげていくためにも、職員の意見が表出できる場面づくりや、モチベーションの確保に向けた取り組みの工夫・充実により、更に働きやすい職場環境づくりへと導いて欲しい。また、職員の積極的な姿勢にも期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は職員の努力ややる気を押し進め、本人の能力向上のため研修に参加させ、スキルアップに努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては不当な理由での排除は行っていない。職員の働く意欲が出て能力が発揮できるように、朝礼などを通じ資料を配ったり、訓辞などが行われている。	職員の募集・採用にあたっては、年齢や性別による排除は行っていない。外部研修への積極的な参加を促し、参加費用についてもサポートしている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼や研修にて生活者の人権尊重にも取り組んでいる。職員の倫理綱領にも個人の尊重や差別プライバシーなどの基本的な遵守事項を定めたりしている。今後は研修の機会を作る予定である。	朝礼やカンファレンス、研修等において、高齢者虐待防止や身体拘束、認知症に関する意識・認識を高めている。今後も継続して取り組む課題として、充実させていく予定としている。	

福岡県 立花グループホームかつき苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修には積極的に参加を呼びかけ費用負担も行っている。またヘルパー2級等の資格取得を推奨し、現在も勤務しながら3名が講習を受けている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や協議会等が主催する研修に積極的に参加させている。また、他グループホームへ訪問し見学するなどの機会を設けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者を中心によく生活者の話をきくようにしている。また安心して生活していただけるよう希望などを聞き、最大限実現するよう努力をしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも不安や不明な点がないかよく話しを聞き、信頼関係が築けるよう心がけている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	かつき苑のサービスはもちろん、外部の様々なサービスの紹介を含め、提案している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけ家事等に参加していただくよう各生活者の特性を理解しながら協力をお願いしている。生活者も家事を楽しまれており、生きがいとなっている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護できる家族がない場合が多いが、家族へ3~4ヶ月に一度は近況報告書を出したり、面会時には普段の様子を伝えたりするよう心がけている。また、年1回家族会を実施したり、各行事に参加してもらっている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の面会も来ていただいている。地域の祭りや催しなどにはバスで生活者を連れて参加するようにしている。	外出時には自宅周辺に立ち寄ってみたり、個別の馴染みの場所への訪問等を支援している。これまでの暮らしを把握し、職員間で共有することで、関係性の継続への支援を行っている。	

福岡県 立花グループホームかつき苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	利用者同士の関係も踏まえ、生活の様々な場面で席の 配置や部屋割り等を生活者同士の関係などを鑑みて調 整している。また仲の悪い方同士の場合も職員が間に 入り仲裁したり、別の話題を話したりしてトラブルを未然 に防ぐ努力をしている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた生活者の家族が野菜をもって きて下さる方もいる。良い関係を継続してい けるよう努力している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	生活者がここでどのように暮らしたいか、日頃ケ アの中でマンツーマンになる機会に話を聴くよう にしている。希望があった場合は介護計画や日 常の生活に希望を反映できるようにしている。	生活暦や得意分野等の情報が丁寧に収集さ れており、簡潔・明瞭に記録されている。月1 回行われているカンファレンスの中で、本人 本位の検討を行い、介護計画や日々の暮ら しに反映するよう努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	新たに入居された際は、苑での生活に役立 てられるように過去の生活歴や嗜好などの 聞き取りを行い、フェースシートに記入す るようにしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	職員1人1人が感じたり、聞いたりしたことは 申し送りやカンファレンスを通じ、一人一人 生活の状況を把握し、記録を行っている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に月に1回カンファレンス を行い、介護計画に反映するようにしている。ま た最低半年に一回は主治医の意見書等を参考 にモニタリングを行い介護計画の作成を行って いる。	本人・家族の意向を踏まえ、毎月カンファレ ンスを行っており、介護計画に反映させるよう 取り組んでいる。アセスメントから抽出され た課題を分析し、認知症へのアプローチにつ いても記載されている。また、得意分野を目標 とする等、個別の計画がわかりやすく作成さ れている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	生活者の状況は記録や申し送りノートに記 入し、全員が同じケアができるように努力し ている。今後はそのためのケア内容確認 カードを導入し、さらに介護の質の向上を目 指している。		

福岡県 立花グループホームかつき苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かつき苑は共生ホーム・デイサービス・ケアプラン・グループホームと多くのサービスを提供している。生活者の状況や精神状態によってグループホームだけでなく他のサービスを利用したり、対応してもらったり、個別のサービスに捉われないケアを実践している。一人一人の状態に応じ、サービスの変更や新しい方法なども必要に応じて行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や地域の方などから意見を聞いたり、地域の行事に参加するなど努力を行っている。また近隣の方へ差し入れをしたりして関係を作っている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が定期的に苑に往診に来ている。また専門的な医療が必要な場合は、主治医・看護師の意見を聞き必要な医療が受けられるように受診の支援を行っている。また主治医が勤務している日は毎日FAXで異常のある方は報告相談し指示をいただいている。	ホームの協力医により、2週間に1回、定期的な往診が行われている。平日は看護師の勤務があり、日々の状況を毎日FAXにて医師に報告し、助言・指示を受ける等、充実した連携体制がある。遠方の受診の際は、家族との連携を図りながら対応している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は全生活者の状態を把握し、必要に応じ、介護職員や主治医、家族等に連絡相談を行い適切な医療を受けられるよう援助している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の生活者の生活の援助や家族への連絡等を行ったり、入院先の医療機関と情報交換を行い適切な治療が受けられ、またスムーズに退院ができるよう対処している。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をどこでどう迎えるか、家族へ希望を聞き確認する種類を作成している。それをもとに終末期ケアを実践している。本年も1名の方が苑で見取り介護を行った。	終末期についてのケアカンファレンスが行われ、本人・家族の意向確認及び同意を得ている。状況の変化に応じて、関係者間で話し合いを重ねながら、看取り介護を行っている。夜間や休日にも対応できる協力医との、充実した連携体制が築かれており、本人・家族の安心にもつながっている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等により緊急時の対応方法などを理解する機会を作っている。		

福岡県 立花グループホームかつき苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜両方の時間帯を想定した避難訓練をすでに実施している。また、消防等に意見を求めたり、地域の協力者を作り、緊急時に備えている。また関連施設にも協力できる体制がある。	訪問時には、防火ボード等の設置工事が行われていた。昼夜を想定した避難訓練を実施し、入居者の参加もある。運営推進会議にも消防署より出席を得ており、地域としての災害対策について助言を得ている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様々な機会での生活者の尊厳・プライバシーに配慮した対応をするように指導している。入浴時は同性による介助をしたり、排泄介助時はカーテンを使うなど配慮している。	朝礼時やカンファレンス等において、具体例を示しながら、振り返りや再認識の機会を持っている。言葉かけや対応は、それぞれの方々の個性を尊重・理解しながら、方言を用いる等、その方にあった対応に努めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者の一方的なケアにならないよう自分で希望を言えるように話を聞くようにしている。それらをカンファレンス等で話し合う機会も作っている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あえて強制的な日課を作らず、その日の体調や希望によって生活者のペースで生活してもらうように心がけている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ生活者のしたいおしゃれができるよう配慮している。女性の生活者にマニキュアをつけたりした。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	生活者の嗜好を把握し、食事形態を変えたり、嫌いなものときは別のものを作ったりしている。下ごしらえや味見、片付けなど生活者にも手伝ってもらいながら行っている。	入居者の方々とともに畑で野菜を育てており、収穫を楽しみながら食卓を飾り、また生育状況や出来具合について会話が弾んでいた。外食を楽しむ機会もあり、また、おやつ作り(たこ焼き・ホットケーキ等)を行い、近所の方々へ届けることもある。調理準備や後片付けをともに行いながら、職員と共に食卓を囲んでいる。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は記録するようにしている。水分は定時には必ず摂ってもらうようにし脱水等を予防している。病気等で食事や水分量が入らなくなった方には、必要に応じ主治医と相談しながら、ゼリー・流動食等も対応している。		

福岡県 立花グループホームかつき苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表を作成し、自分では自力で、介助が必要な方は職員が、一人一人にあった口腔ケアを実施している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別にトイレ誘導を行い、失禁のないように対応している。時間をきめて誘導する方もあるが、希望にあわせて誘導する方もある。できるだけトイレでの排泄ができるように介護計画を立てている。	排泄チェック表を作成し、個別のパターンやサインの把握に努めており、介護計画にも盛り込みながら、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便はすべて量や回数をチェック表につけている。それにより排便がない、または下痢状態を把握し、看護師や主治医と相談し対策を行っている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	誰がいつ何時に入浴などとは決めず、バイタルや看護師と相談しながら生活者のペースや必要性にあわせ入浴を行っている。またその記録をつけている。	毎日入浴の準備を行い、入居者の希望や習慣を尊重しながら、随時入浴を行っている。清潔保持に配慮し、少なくとも週2回は入浴できるよう、声かけ等に工夫を行っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や消灯時間は決めておらず、生活者自身が自分のペースで寝起きしてもらっている。体調や病状に合わせてながら、生活者自身の希望で午睡もしてもらっている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を管理し、看護師や主治医をとおり、服薬の管理を行っている。症状についても看護師主治医にそのつど相談し、薬の内容を決めてもらっている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むきや配下膳、掃除、洗濯たたみ、畑仕事など生活者の一人一人の希望や嗜好に合わせて、やりたいことができるようにしている。また、カンファレンスでも何か出来る事やしたいことがないかなど話し合う機会を作っている。		

福岡県 立花グループホームかつき苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩や畑仕事など希望により個別に対応している。また、季節にあわせバスにて祭りや自然を観察しに外出したりしている。</p>	<p>天候や季候、またその日の希望を募り、週2回程、代表者自らハンドルを握るバスにて、ドライブや名所巡り、馴染みの場所等に出掛けている。一人ひとりにあわせた移動の配慮を行っているため、車椅子を利用する方の外出の機会も多い。敷地内にある花壇や畑では、それぞれの方々の職歴や得意分野を活かして、花や野菜が育てられている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を管理できる方には管理してもらっている。買い物など希望があれば対応するようにしている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話や手紙の希望があればその都度支援している。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の野花を飾り愛でたり、季節にあった創作物を掲示したり、行事の写真を掲示するなど、全館で生活者が快適に生活できるよう配慮した環境作りを心がけている。</p>	<p>室内外各所にソファや椅子、ベンチが配置され、それぞれの方々のくつろげる場所が確保されている。食器棚や調理器具が並ぶ様子は、普通の家庭同様であり、また程よい距離感の中で、日々の暮らしが営まれている。リビングからは直接ウッドデッキへとつながっており、気軽に外気浴ができる。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>いつも座る以外のイスとソファを配置し、思い思いの過ごし方ができるように配慮している。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生活者や家族から意見や希望をききながらベッドやふとん、たたみのセッティングを行っている。</p>	<p>それぞれの居室に異なるデザインの暖簾が掛けられている。季節の花が飾られたり、使い慣れた筆筒等の家具が持ち込まれており、自室として過ごしやすいよう配慮されている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>適所に手すりを設置し、移動が困難な場所には職員が介助して移動してもらっている。浴室にも手すりを追加した。</p>		